

「令和5年度地域課題解決支援事業」成果報告書

市町村名 新城市

事業名 西部公民館を活用した子どもの居場所づくり ～学習サポートを中心として～

1 経緯

新城市は少子高齢化が進んでおり、5年後には子どもの人数は大きく減少し、市内の小学校では複式学級の増加が予測されている。そうした現状にある新城市にとって、地域を元気にする活力をもった大切な存在が子どもたちである。子どもたちの活力が、異世代交流を通して広く伝わり、住んでよかった地域社会づくりを進めていくことが、喫緊の課題となっている。

西部公民館（ちさと館）は、千郷小学校や千郷中学校と隣接しているが、子どもたちからは「普段は使うことができず、特別な行事等の時だけ利用できる施設」という意識をもった子がほとんどであった。



〔西部公民館（ちさと館）全景〕

したがって、子どもと地域住民とが接する機会は少なく、特に新型コロナウイルスの感染拡大が心配された3年間は、異世代で接点をもつことができず、地域活動も停滞してしまった。令和5年5月より新型コロナ感染症が第5類に引き下げられ、人々がコロナ前のように交流活動をリスタートさせるこの機会をとらえ、西部公民館が子どもたちの居場所の一つになるような取り組みを企画し、気兼ねなく立ち寄ることができる公民館であることを子どもや保護者に伝えたい、そしてその取り組みを地域活性化の一助にしたいと考えた。

2 趣旨・目的

西部公民館がある千郷地区は小中各1校ずつしかなく、その2校とも西部公民館に隣接しているため、小学生・中学生の誰もが学校帰りに立ち寄ることもできる立地となっている。さらに、年間2回『ちさとプレーパーク』という自分で遊びをつくるイベントが行われ、西部公民館も会場の一つとなっている。土日の2日間で幼児や小学生を中心に約300人の参加があり、そうした面でも楽しく遊んだ思い出のある場所として身近に感じる子が多いのではないかと思う。

こうした利点を生かし、まずは自己管理できる中学生に焦点を当て、次の目的を設定した。

～ 千郷中学校との連携を通して、子どもの居場所があり、子どもの顔が見える公民館を目指す ～
そして、学校連携の柱を「利用を促す積極的な情報提供」「学習サポート」の2点とした。特に学習サポートに焦点を当てたのは、分からなかったことが理解できたうれしさや、参加してよかったという満足感を生徒たちに感じてほしいと考えたからである。さらに、学習サポートに対する中学校や保護者の協力、公民館利用者からも理解してもらえることを期待して、本事業を始めた。

3 手 段

(1)「学びの場所」としての開放

以前より保護者や高校生から、「中学生が、わざわざ隣の中学校区にある新城図書館まで行って勉強している」という話を聞いていた。さらに、地域の方からは「西部公民館があるのだから、新城図書館まで行かずに、そこで勉強できればいいのに」という思いがあることも耳にした。館内には「エントランスホール」という誰でも無料で利用できるスペースがあり、大きなテーブルが2台と椅子8脚も用意されている。しかしながら、このホールを無料で利用できることをほとんどの中学生は知らず、授業後に公民館の外に立って保護者の迎えを待っている姿が多く見られた。

そこで、中学生の公民館利用を促す手立てとして考えたことは次の3点である。

- ① エントランスホールを保護者の迎えを待つ場所として利用してよいことの情報提供を行う。
- ② 自学自習や読書など「学びの場所」として、使用していない部屋を開放する。時間帯は、平日が授業後の15:40から17:00まで、休日や長期休業中は9:00から16:00とする。
- ③ 部屋を利用する際に、事前の予約（申請書の提出）や使用料を必要としない

館内はWi-Fiが完備し、タブレットを使って調べ学習ができる。部屋数は会議室・閲覧室・美術室・調理室・和室の5部屋があり、いくつかの部屋は利用団体がなく空いていることが多いため、中学生の利用を受け入れることができる状況だった。そして、予約や使用料に関して、新城市社会教育審議会で承認を受けることができ、環境を整えることができた。

(2)「学びに寄り添う学習サポートスタッフ」の配置

学習サポートを行うにあたり、場所を用意することに加え、分からない学習内容に対して一緒に考えてくれたり、教えてくれたりする人的な面での環境整備も重要である。小中学生を対象に学習会で講師をしている学生や、児童クラブの支援を手伝っている学生を紹介してもらうことができ、それらの学生に学習サポートスタッフとしての協力を依頼すると快諾してくれた。

また、学習サポートの時期を考えるにあたり、中学生が集中的に勉強する時期であり、サポートスタッフを務める学生も時間が作りやすいと思われる「夏休み後半」と「2学期のテスト週間」を学習サポート週間と定め、重点的にサポート体制を整えることにした。

4 概 要

(1) 利用を促す積極的な情報提供 ～施設利用状況の発信～

① 中学校の理解を得るための手だて

4月下旬に中学校を訪問し、校長・教頭に西部公民館が中学生の居場所づくりを進めたいと考えていることや取り組みの趣旨・概要について説明した。その際、中学校教員が負担に感じていることの一つに、下校時に保護者の迎えを待つ生徒への対応があることを聞いた。外だけでなく教室で待つ生徒もいるため、そこに教員がつかなければならないことが負担になっているとのことだった。

そこで、まずは「お迎え待ち」の生徒がエントランスホールを利用することから始め、中学校の各学級の担任からも生徒・保護者にエントランスホールの利用を伝えてくれることになった。

また、「学びの場所」として空いている部屋を開放する時期は、6月下旬から始めることとし、利用できる部屋を中学生に情報提供したり、積極的な利用を呼びかけたりする手立てとして、毎週火

曜日に右に載せた『自学自習などに利用できる施設一覧』〔表1〕を中学校と公民館入口の2か所に掲示した。学校では、授業や朝礼等で多くの生徒たちが通る体育館入口付近にラミネート加工した一覧表を掲示することで、常によい状態のプリントを中学生に見てもらうことができた。

② 中学生に周知するための手だて

6月中旬、中学校の生徒議会の時間の一部を使って、各学級の代表者へ「公民館利用の目安になる一覧表で情報提供すること」「自学自習で使える部屋を開放すること」を説明し、積極的に利用してほしいという思いを直接伝える機会を得た。

その際、新しい公民館利用の要点を箇条書きにまとめた表〔表2〕を作成し、代表者に確実に内容が伝わるようにすることで、各学級に戻った代表者が他の子たちに説明しやすいように工夫した。さらに、教室に掲示してもらうことで、全員が内容を把握できるようにした。

③ 保護者の協力を得るための手だて

当初はPTA会議に出向き、そこで直接保護者へ説明することも検討したが、日程が合わずその機会を作ることができなかった。保護者へ直接、西部公民館が取り組んでいる学習サポートについて情報提供できたのは、夏休みである。中学校の協力により、「自学自習などに利用できる施設一覧」の電子データを毎週保護者の携帯電話へメール配信するだけでなく、『第1回学習サポート週間のお知らせ』の案内文も全保護者に配信することができた。

5 実施状況・プロセス

(1) 第1回学習サポートの実施

① 実施計画

夏休みが終わりに近づき、まもなく2学期を迎える時期は、課題の追い込みや夏休み明けテストに向けた勉強などで、学習サポートの必要性が高い時期だと予想し、8月22日から25日までの4日間を「第1回学習サポート週間」とした。取り組みの概要は、以下の通りである。

- 期間と時間帯 : 8月22日(火)～25日(金) 9:00～11:30
- サポートスタッフ: 地元大学生4名(うち3名が教員志望)
- サポートの仕方 : 中学生が自分で学習を進めながら、分からないことや苦手な問題などを質問する。質問に対して、スタッフは「答えを教える」「考え方を説明する」「ヒントを教える」「調べ方を伝える」などのサポートを行う
- 情報提供の工夫: スタッフを務める大学生の専門教科、得意な教科を案内文に載せた

夏休み中で、全校生徒へプリントを配布することができなかったため、中学校から保護者へ案内文(実施計画)の電子データをメールで情報提供した。

【中学生の皆さんへ】自学自習などに利用できる施設一覧 11月14日(火)～11月19日(日)

月日	曜	時間帯	利用順位①		利用順位②		備考	
			会議室	読書室	調理室	美術室		和室
11月14日	火	15:00～17:00	○	○	○	○	○	学習サポート① 15:00～17:00 (金・開・美・調・和)
11月15日	水	15:00～17:00	○	○	○	○	○	学習サポート① 15:00～17:00 (金・開・美・調・和)
11月16日	木	15:00～17:00	×	×	○	○	○	学習サポート① 15:00～17:00 (英・調・和)
11月17日	金	12:30～16:00	×	×	×	×	×	
11月18日	土	9:00～12:30	×	×	×	×	×	学習サポート① 9:30～11:30 (金・開・美・調・和)
		12:30～16:00	○	○	○	○	×	
11月19日	日	9:00～12:30	○	○	○	○	○	学習サポート① 9:30～11:30 (金・開・美・調・和)
		12:30～16:00	○	○	○	○	○	学習サポート① 13:30～15:30 (英・開・美・調・和)

〔表1: 1週間分の利用可能な部屋を示す表〕

～ 千郷中学校の皆さんへ ～

西部公民館

Wi-Fiが完備している西部公民館を、中学生の自主学習や読書など、「学びの場所」として活用できるようにします。その際、事前の予約や使用料は必要ありません。

- エントランスホールでは、9人まで学習できます。利用する生徒が多い時は、使用していない部屋を開放します。
- 毎週火曜日に、その週の館内の利用状況を一覧表にまとめ、体育館入口に掲示。利用できない日は、その表を見れば分かるようにします。
- 静かにマナーよく学習や読書等に取り組みましょう。
- 平日利用 ～お迎えを待つ時間を使って～
火曜日から金曜日の午後5時まで利用できます。
- 休日利用 ～土曜日・日曜日・祝日～
・午前9時から午後4時まで開放します。



利用方法本館のみ
(1) 西部公民館 (0936) 23 4393
(2) 教育委員会生涯学習課 (0936) 23 7439

〔表2: 要点をまとめ各学級に掲示した表〕

② 実施状況

実際に第1回学習サポート週間を実施してみると、期待していたほどの中学生の参加がなかった。参加人数は以下の通りである。

月 日	8月22日(火)	23日(水)	24日(木)	25日(金)
利用人数	11人	12人	13人	16人

第1回の取り組みについて、中学生の利用が少なかった要因を考えると、以下の4点が大きく影響していると思われる。

- ・ 周知方法 … 直接、中学生に働きかけることができなかったところに弱さがあった。
- ・ 暑 さ … 連日、猛暑日が続いていた。自転車での移動の暑さを考えると、冷房の効いた自宅で過ごす方がよかったのではないか。
- ・ 部活動 … お盆明けで部活動が再開される部が多かった。「部活動があって、子どもを学習サポートに行かせられない」と残念がっていた保護者がいたと聞いている。
- ・ イメージ … 2学期が始まってから、ある中学生に聞いたところ、公民館の中では、おしゃべりは一切せずに、黙々と勉強をしなければならない」と思っていた。同じ考えをもつ中学生が少なからずいたように思われる。

第1回学習サポート週間の結果を通して、中学生の公民館利用に対するイメージを変えることや、より学習サポートの必要感がある時期を選ぶこと、そして中学生が求める学習環境がどのようなものを再検討することが第2回までの課題となった。

(2) 第2回学習サポートの実施

① 改善を図った実施計画

第1回の反省を踏まえた改善点の1つ目が、事前の意識調査である。9月下旬に中学校の協力を得て、中間・期末テストのテスト勉強で西部公民館を利用する気持ちがあるかどうかを聞いてみると、期末テストの方が来館しようと思っている生徒が多かった。そこで、学習サポートの期間を分散せずに、期末テストに集中した方が中学生の思いに沿っていると考え、11月10日から19日までを第2回学習サポート週間とした。

改善点の2つ目は、学習サポートスタッフに関する生徒への情報提供をより詳しくしたことである。前は、学生の苗字と専門教科や得意な教科だけだったが第2回は性別と学年を付け加えることにした。生徒の中には、異性には話しかけにくい子がいるのも現実であり、性別を伝えることで話しやすいという印象をもつ子がいると考えた。また、スタッフの中には千郷中学校の卒業生もおり、苗字・性別・学年を伝えることで「○○先輩だから質問しやすいな」と感じる生徒がいることも期待した。



【写真1：第2回に参加した中学生の学習の様子】

3つ目の改善点は、スタッフの増員と教員OBを加えたことである。テスト週間は平日もあり、日数も多い。8日間を設定した第2回学習サポート週間は、地元大学生6名にスタッフをお願いす

ることができ、平日、休日の両方に配置することが可能となった。

さらに、学習指導のプロである教員OBもスタッフに加えることができた。ベテランの女性の方で、学習指導以外のことでも相談に乗ったり、助言ができたりするスタッフが担当する日ができたことで、中学生へのサポートの幅も質も高まった。

改善点の4つ目は、生徒への案内文（実施計画）を印刷し、全校生徒に配布することで、学習サポート週間のPRを直接生徒に行った

ことである。なお、この案内文の中に、Q&A方式で公民館利用に対する堅いイメージを変えることをねらいとした質問とその回答を入れることで、意識の変容を図った。〔図1〕

② 実施状況

2学期末テストのテスト勉強ということもあり、3年生を中心として、西部公民館を利用した人数が大幅に増えた。平日でも保護者の許可を得て、学校から直接来館し、午後5時ぎりぎりまで熱心に勉強する姿が多く見られた。隣の部屋で津軽三味線の練習をする団体がいた時、音が気にならなかったか心配で聞いてみると、「とてもいいBGMだったから、すごく勉強に集中できたよ」と言われ、これも公民館で勉強するよさなのかなと感じたこともあった。

やや思っていたことと違っていたのは、多くの生徒が集中して自学自習に取り組み、学習サポートスタッフに質問する場面が想定より少なかったことである。このことは、集中して勉強に打ち込む場所を中学生が求めていることを示しているが、逆にいつでも相談できるスタッフがいるからこそ安心して勉強に取り組めたことの表れではないかとも考えている。スタッフに質問や相談をする生徒も少なくはなく、個別に優しく教えてくれるスタッフの説明をうなずきながら聞き、最後は笑顔でお礼を言う生徒がほとんどであった。11月の8日間の中学生の参加人数は以下の通りである。

日	10(金)	11(土)	12(日)	14(火)	15(水)	16(木)	17(土)	19(日)
人数	7人	11人	27人	18人	18人	20人	15人	34人

のべ150人が第2回学習サポート週間に参加した結果は期待を越えるものであったが、これは第1回の反省を振り返り、改善策を講じたことが結果につながったものだと考えている。

6 スタッフの感想

（生涯学習課職員）

本事業は試行錯誤の連続であった。中学校に隣接しており、館内はWi-Fiが完備している。エン

1 中学生の皆さんへ伝えたいこと

ちさと館は、中学生の皆さんを応援しています。夏休みの学習サポートに続いて、2学期も11月16日から始まる「力一杯テスト」に向けて、テスト勉強をサポートしてくれるスタッフに来館してもらいます。

サポート期間は、11月10日(金)から19日(日)です。

(1) こんなことはありませんか？

「黙々と勉強だけしているなんてできないよ」

→ 皆さんに使ってもらえる部屋は、千郷中の生徒しかいません。普通の声の大きさを会話をしたり、水分補給をして一息ついたりしながら、過ごしてもらって構いません。あまり堅苦しく考えなくて大丈夫ですよ。

「テスト勉強をしているところ見られたくないよ」

→ 「テスト勉強している姿」や「勉強でわからないことがたくさんあること」は、決してはずかしいことではないと思います。逆に、自分の進路選択に向けて、前向きに努力する姿こそ中学生らしさだと思うけどな。



〔図1：公民館利用の意識を変えようとしたQ&A〕



〔写真2：自学自習に打ち込む中学生の様子〕

トランスホールだけでなく、会議室や閲覧室など利用団体がなければ、中学生に開放する。しかもそのことを公民館職員が中学校の協力を得て、生徒議会で情宣した機会まで得た。その上、大学生が学習サポートまでするという環境は申し分ないものだという行政側の考えは打ち砕かれた。何よりも大切な中学生の視点が欠如していたのである。今後の糧としたい。

本事業を今回ここまでやってこられたのは、多くの方々のお力添えがあったからこそである。市のこども未来課、自治振興事務所、千郷中学校、愛知県生涯学習推進センターの方々、そして何より現場で奮迅した公民館職員に感謝を申し上げたい。

(公民館職員)

今回の事業に取り組み、中学生の姿が館内に見えることで、他の利用者の表情が明るくなり、時には中学生に話しかける方もいて利用者同士の接点をつくることができた。今回の中学校との連携による学習サポート活動は、関わった人すべてにとってプラスになったのではないかと感じている。

(学習サポート大学生)

- ・ 私は教員養成大学に行っている。2年生なので、子どもと接する機会がなく、中学生に勉強を教えることができたのは、とてもよい経験になった。質問された時、どう説明したら分かりやすいかを考えることが楽しかったし、説明を聞いて納得してくれたことがとてもうれしかった。
- ・ 夜の勉強会で、小学生や中学生を教えている。その中の子が学習サポートに来て、質問をしてくれてよかった。中学生に教えることは慣れているつもりだったが、その子にとっての分からなさがあることを知り、教師を目指す自分にとって貴重な体験だった。



〔写真3：中学生に寄り添う地元大学生〕

7 成果

学習サポート週間を通して、公民館での勉強が自分に合っていると感じた子や、授業後の時間を有効利用できると感じた子が出てきた。その子たちはサポート週間以外でも来館し、黙々と勉強している。その子たちに聞いてみると「ここで静かに勉強する方が集中できる」とか「授業後に友達と一緒に教え合いながら勉強できるから楽しい」と話してくれた。西部公民館が「行事がなければ行かない場所」から「勉強をするための大切な場所」として居場所を見つける子が出てきていることに、今回の事業に取り組んできた成果を感じている。また、来館した中学生に他の利用者が声をかける話がはずんでいる様子を見ると、異世代交流の足掛かりにもなったのではないかと思う。

8 課題

本年度の取り組みを振り返り、課題は「限定的だったこと」と考えている。来館する中学生がサポート週間に集中し、それを普段の日につなげられていない。また、地域交流という視点からも中学生と地元大学生との接点をつくることはできたが、そこからの広がりがまだ不十分だと感じている。いろいろな面で広がりをもたせながら、持続可能な取り組みを企画することが必要である。

9 今後の展望

本年度は、中学生の居場所づくりに取り組み、気兼ねなく来館できる意識をもたせるための第一歩として「公民館利用の情報提供」「学習サポート」を進めてきた。ぜひ来年度以降も継続していき

たいと思っている。今後は、交流する対象をさらに異なる世代に広げていくことで、地域の活性化に貢献する機能を高めていきたいと考えている。その具体的な案として、中学生と地元高校生との交流や、郷土研究会による小中学生への地域学習講座などを検討したい。

10 職員としての取り組んだことによる学び・気づき

今回の取り組みから学んだことは、子どもたちが必要と感じる時期に、興味・関心に沿った活動を働きかければ、参加し期待以上の動きを見せてくれる子がいることである。そして、その子たちに届く情報発信の工夫や、参加しやすい環境づくりが社会教育には大切だと学ぶことができた。

* 参 考

新城市西部公民館で19日まで、同市立千郷中学校の生徒を対象にした「テスト勉強サポート」の施設開放講座が行われている。

愛知県生涯学習推進センター、市町村公民館が共同で取り組む生涯学習地域連携講座として、同市社会教育審議会の審議を踏まえて計画実施された。

管理人がいる同公民館で中学生の居場所づくりとして、テ

スト週間に合わせた今月10日から計8日間、2時間10コマを実施。各コマ10〜20人が参加し、会議室、閲覧室、美術室などでテスト勉強などを行っている。大学生ら7人がサポートスタッフとして、1コマ1〜2人で学習支援をしたり、相談に乗ったりしている。

3年の山野真さんは「家ではあまり集中できないが、ここでは集中してや

県と市や 公民館連携 千郷中学生対象に施設開放講座

テスト勉強サポート

れ、教え合うことも



テスト勉強に励む生徒ら（新城市西部公民館で）

スタッフに聞くこともできるのでとてもいい。10回とも来た」と話した。

同校出身で学習サポートスタッフの小倉彩実さん（大学4年）は「責任があるので、質問にも丁寧に答え、助言もするようになっている」とし、「中学時代遠い図書館まで行っていた。

た。近くで学べるこの活動が広まるという期待を寄せた。

県東三河総局新城設楽振興事務所の中島隆文主任は「多くの方のお力添えでこの事業が進められ、大変ありがたい。生徒たちにも好評で有意義な講座となっている」と語った。

（夏目聡）

【令和5年11月19日付東日新聞記事】